

総合基本計画審議会（第3回）議事録

1 日時 令和6年2月22日（木） 13:30～15:10 2 場所 本庁 大会議室 3 出席状況 唐津市総合基本計画審議会委員 24名（※7名欠席） 事務局：政策部 濱口部長、藤田副部長 市政戦略課 森課長、通山係長、古賀主査、徳田主査、犬丸副主査 支援事業者：有限責任監査法人トーマツ 堤氏		【第3回 審議会】
議 事 内 容		
1 開会		
2 あいさつ		
○ 本日の審議会では、これまでの市民参画の取組で得られた市民の意見を踏まえ作成された、総合計画の基本構想（骨子案）が示される。 ○ 皆様からご意見・要望をお聞きしたい。	会長	
3 議題		
次期総合計画の基本構想骨子案について		
(1) 序論		
事務局より議事内容を説明 （説明資料） 第3次唐津市総合計画基本構想（骨子案）※P3～P23：序論に関する部分	事務局	
○ 人口推計はよく当たると聞くと、5年に1回やり直す意図は何か。	委員	
○ 5年ぶりに国が示した直近の人口等の実績値や将来人口推計を参考に、より精度の高い人口推計となるよう数値を見直している。	事務局	
○ 新型コロナウイルス感染症の影響で、結婚を控えた方もいると思うが、その影響はどのように考えるか。5年後の人口推計においては、人口減少がさらに深刻な状況になっているかもしれない。	委員	
○ 人口が減るという事実はしっかりと受け止めつつ、人口の減少幅を減らすという側面、人口が減っても成り立つ地域にしていこうという側面、両面からのアプローチが必要だと考える。	事務局	
○ 骨子案10ページ目、「人中心の社会への転換」の項目内に書かれている「人間のウェルビーイング」の表現について、「人間の」はいらないのではないか。	委員	
○ 意見を踏まえ表現の修正を検討したい。	事務局	

○ 市民アンケートの回答状況について、地域別の集計結果や意見の傾向が分かれば有効であると考ええる。	委員
○ 市民アンケートについては、参考資料3で回答状況を地域別に集計している項目があるのでご確認いただきたい。	事務局
○ 骨子案10ページ目、「人中心の社会への転換」の項目で使われている「転換」というフレーズに違和感を覚える。今の取組をより強化するニュアンスのフレーズの方が良いのではないか。	委員
○ 効率や利益のみを求める「モノ」の価値観を前提とした社会から、気候変動問題やカーボンニュートラルなど、人や自然を含む地球全体の調和を重視した社会への更なる取組の推進という意味を込めて「転換」というフレーズを使っているが、意見を踏まえ表現の修正を検討したい。	事務局
(2) 基本構想 事務局より議事内容を説明 (説明資料) 第3次唐津市総合計画基本構想(骨子案)※P24～P31:序論に関する部分	事務局
○ 骨子案26ページ目の基本目標「そだてる」に関する説明において、生涯学習環境の整備が項目立てされている。一方、骨子案12ページ目の市民アンケートの結果で「生涯学習環境の整備と地域コミュニティの形成」は、重要度・満足度がともに低い「再検討」の分類となっている。市民の考える重要度・満足度が低い取組を継続することに関しては、どのようにお考えか。	委員
○ 大人になってからの学び直し、リスキリングの注目度が高まっている。もちろん、市民アンケートの結果を踏まえて事業の取捨選択は考えていかなければならないと思うが、大きな方向性としては、生涯学習に関する施策は必要だと判断している。	事務局
○ 基本目標「くらす」と「すこやか」の関係において、共助の部分が基本目標をまたぐ部分があると思うので、今後整理が必要だと感じている。	委員
○ そのような整理は、基本計画を策定する令和6年度に進めていくことになるが、総合計画だけでなく総合戦略の内容も含めた施策の整理が必要だと感じている。	事務局
○ 佐賀県の事業であるが、ゆめさが大学は生涯学習の中でも良い事業だと思う。市民は事業主体が県なのか市なのかはそれほど気にされないと思うので、それぞれ補完する形で事業展開できれば良いと思う。	委員
○ 国・県・市がそれぞれの役割を理解し、補完し合いながら事業を進めていく必要がある。	事務局
○ 本日欠席の委員より、基本構想(骨子案)に関する意見書が提出されているため、内容を紹介したい。	会長

(意見書の内容) ・目指すまちの姿、「選ばれるまち からつ」に非常に共感する。 ・選んでくれた人に何を還元できるかが重要。教育の充実、定住させるための仕事先の提供、子育て世代への優遇、企業誘致などを具体化しないといけない。 ○ 骨子案26ページ目、基本目標に関する説明の項目立てで「✓」の記号が使われているが、何か意図はあるか。「✓」は一般的に完了の意味などで使われることが多いと思うため、少し違和感を覚える。 ○ 特に深い意味を込めているわけではないので、他の記号にあらためさせていただきたい。 ○ 農業については、少子化や人口減少が先行する形で影響を受けていると感じている。これからの取り組みであるが、農業生産を上げて、地域の活性化に繋がりたいと思っている。また、資材の価格が高騰しており、農家経営は苦しい状況となっている。国が農村基本計画の見直しをする予定のため、その計画を踏まえる形で総合計画を策定し、農家支援に力を入れてもらえればと思う。 ○ 高齢者が増えて人口が減っていく中で、色々な事業者が入ってくるような企業誘致などが必要だと思う。財源があつての将来像だと思う。 ○ 唐津には豊かな歴史と文化があり、観光面においては十分な魅力があると感じている。しかし、選ばれるまちになっても働く場所がなければ定住には結びつかないと思う。佐賀県内でも所得水準が低いところから目を背けてはならないのではないか。特に、基本目標「にぎわう」は重要だと感じるため、この基本目標の中で所得向上に関する取組など、もう少し踏み込んだ経済活性化につながる施策を考えてほしい。 ○ 唐津の港をどうにか活用できないか。トラックが長距離走れなくなる時代がくると、船での輸送に注目が集まる。総合計画で唐津港の話をもう少し強調してもよいのではないか。 ○ 港湾に関しては、伊万里が産業、唐津は観光という棲み分けになっていると思う。クルーズ船の誘致は一生懸命やっているが、海上保安庁の拠点としての整備も必要ではないか。 ○ 骨子案26ページ目、基本目標「こちよい」の説明で項目立てされている「コンパクトシティの実現」と「市内の居住地域に左右されない」の表現については、考え方が矛盾することにならないか。 ○ 都市計画マスタープランの見直しを進めているが、唐津市としてはコンパクトシティの中でも多極ネットワーク型コンパクトシティを目指しており、各地の拠点に施設を集約していきながら、それらと中心市街地とを公共交通等で結ぶという考え方である。現在の書き方では、指摘の通り相反する内容に受け取られることも考えられるため、表現をあらためたい。	委員 事務局 委員 委員 委員 委員 委員 事務局
--	---

○ 教育委員会が二十歳の祝典にあわせてアンケートを実施している。少子高齢化による人口減少、特に唐津から転出した若者が戻らないという喫緊の課題について、参考になる意見が得られると思うので参考にしてほしい。 ○ これまで各課で取られてきたアンケートはもちろん参考にしつつ、具体的な施策を検討していく際に活用したいと考えている。	委員 事務局
※ 基本構想（骨子案）の修正について ○ 本日の審議を踏まえ、基本構想（骨子案）の修正が必要であるとする。事務局で今後作成する修正案の確認は会長一任させていただき、その後、委員各位に書面で報告する形をとりたい。 （会長の提案に対する他委員からの異議なし）	会長
4 閉会 以下余白	